

官民研究開発投資拡大プログラム(PRISM) 審査・評価委員会
国立大学イノベーション創出環境強化事業分科会 概要

【令和3年度第3回分科会】

1. 日 時：令和3年8月30日（月）13:00～19:00

2. 場 所：オンライン（事務局会場：内閣府 中央合同庁舎第8号館6F 623会議室）

3. 議 事：

- （1）新規採択に関する審査の進め方について
- （2）新規採択 申請大学からのヒアリング
- （3）新規採択 審査結果について
- （4）その他

4. 分科会委員 ※◎は座長（五十音順・敬称略）

五十嵐 仁 一（ENEOS 総研株式会社代表取締役社長）

◎上山 隆 大（総合科学技術・イノベーション会議常勤議員）

岸本 康 夫（JFE スチール株式会社スチール研究所研究技監）

本山 和 夫（学校法人東京理科大学会長）

渡辺 裕 司（元株式会社小松製作所執行役員経営企画室副室長）

5. 評価方法及び採択候補大学の選定方法

・委員は、計画調書、及び、ヒアリング内容に基づき、優れた点などについて、所見を示すとともに、審査観点(1)～(4)のそれぞれに関し、評定「A」（優れている）、「B」（良好である）、「C」（やや不十分である）、「D」（不十分である）のいずれかを付与する。

・審査観点は以下のとおりとする。

(1) 大学の財務構造の適正な把握

- これまでの大学の支出、収入の分析を基にして、大学の財務構造の現状ならびに課題を適切に把握しているか。

(2) これまでの成果・実績

- これまでの外部資金獲得の増加に向けた改革の取組は、効果的なものであったか。
- これまでの成果・実績を踏まえて、今後の計画が実現可能と判断されるか。

(3) 今後の民間資金獲得額増加に向けた計画の妥当性と具体性、実現可能性

- 大学の経営計画に沿った民間資金獲得のための取組は具体的か。
- その取組は実現性があり、大学の財政基盤強化に資する民間資金の獲得が期待されるものか。
- 計画する民間資金獲得のための取組実施を担保するガバナンス体制が整備されているか。
- 新型コロナウイルス感染症による獲得資金減少の可能性を考慮している場合、計画が、民間資金獲得を増加へと導く方策について具体的かつ実現可能なものか。

(4) 本事業の効果

- 本事業に当該大学が採択されることで、当該大学の経営に強いインパクトを与え、取組を加速させるなど、政策的な効果が期待されるか。

・採択候補大学の選定方法は以下のとおりとする。

一次審査、二次審査ともに満点を 30 点に設定する。一次審査と二次審査の合計点で順位付けし、令和 3 年度は上位大学 4 校（国立大学運営費交付金の重点支援①及び②の大学 2 校、重点支援③の大学 2 校）を選出する。